

科目名	子ども家庭福祉						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	こどもと家庭をとりまく現在の環境や現状の把握、またこれまでのこども家庭福祉にまつわる制度や施策を学ぶ。また、こどもを取り巻く現在の課題(少子化・虐待・貧困家庭・特別な支援を要するこども達への保育)にも触れ、保育者として、どのように子ども達と関わっていくべきか、そのために様々な社会資源を童理解し、活用すべきかを授業の中で学び、考える。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					現代社会におけるこども家庭福祉の意義と歴史の変換について理解する	
	○					こども家庭福祉の制度や実施体系について理解する	
	○	○				こども家庭福祉の課題について総括的に考察できる力を養う	
	○					保育者としてこどもの最善の利益をはかるための基礎的な知識を習得する	
テキスト・教材 参考図書	児童家庭福祉 こどもと家庭を支援する「第3版」大津泰子 ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション				教科書の当該範囲を読んでおく	
	2	現代社会とこども家庭福祉				教科書の当該範囲を読んでおく	
	3	こどもの人権				教科書の当該範囲を読んでおく	
	4	こども家庭福祉の成立と展開				教科書の当該範囲を読んでおく	
	5	こども虐待とドメスティックバイオレンス問題とその防止				教科書の当該範囲を読んでおく	
	6	社会的養護を必要とする子どもへの福祉対策				教科書の当該範囲を読んでおく	
	7	待機児童について				教科書の当該範囲を読んでおく	
	8	レポート対策①				教科書の当該範囲を読んでおく	
	9	レポート対策②				教科書の当該範囲を読んでおく	
	10	こども家庭福祉に関する法律				教科書の当該範囲を読んでおく	
	11	こども家庭福祉サービスの動向と多様化				教科書の当該範囲を読んでおく	
	12	保育所における保育サービス				教科書の当該範囲を読んでおく	
	13	認定こども園について				教科書の当該範囲を読んでおく	
	14	レポート・科目試験対策				教科書の当該範囲を読んでおく	
15	レポート・科目試験対策				教科書の当該範囲を読んでおく		
評価方法	(1)レポートの作成・提出(2)ノート提出(3)授業への出席・授業中の態度・取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート作成	◎					60%
	ノート提出	◎			○		20%
	出席・授業態度				◎		20%
履修上の注意	欠席が5回以上の場合単位取得不可とする。授業用のノートかファイルを用意する事 保育実習必須単位の科目です。						

科目名	保育原理						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	保育所保育士として13年間、保育所に勤務		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	子どもの乳幼児期における保育者の関りは、将来の人間形成の基礎として極めて重要なものである。保育者は乳幼児に寄り添い、養護・教育を行い、その健やかな成長を助ける者として大きな期待が寄せられている。この科目では、保育の基本(理念、役割、制度、実践等)を学び、保育についての幅広い視野を養い、現代社会が求める保育のあり方を考えようとする力を育む。なお、本科目は、保育実習Ⅰにつながる科目であり、単位の取得が実習要件となっている。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	○				「保育」と「教育」と「養護」、それぞれの言葉について言葉で説明できる。	
	◎	○				保育思想に影響を及ぼした人物について、3名以上挙げ説明することができる。	
	◎	○				現代社会において保育サービスは何を求められているのか、簡単な言葉で説明することができる。	
	○	◎				現代社会における子どもの問題と求められる保育サービスについて、関連付けることができる。	
テキスト・教材 参考図書	保育原理(近畿大学九州短期大学) 保育所保育指針解説・幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(ともにフレーベル館) ※そのほか必要に応じて、教員作成の資料を配布する。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、「保育」と「教育」と「養護」について				テキストP5～10までを読んでおくこと。	
	2	「子ども観」はどのようにつくられるのか。				教育実習に行き、自分自身の子ども観が変わったか、各自考えてくること。(授業中に発表を行う)	
	3	保育思想と子ども観の変遷				テキスト第2章、第3章を読んでおくこと。	
	4	子どもが育つ環境の理解				保育指針・幼稚園教育要領の保育内容『環境』について、読んでおくこと。	
	5	保育の目的				テキスト第6章を読んでおくこと。	
	6	保育の内容・方法・計画・評価				テキスト第7章を読んでおくこと。	
	7	復習テスト(1回目)、保育における健康・安全の原理				第1回～6回までの授業の内容を復習しておくこと。	
	8	1回目復習テストフィードバック、DVD視聴1(夜間保育園について)				夜間保育園について調べる。	
	9	DVD視聴2(夜間保育園について)、感想 ※第8回授業の続き				夜間保育園について調べる。	
	10	子育て支援の必要性と背景				現代の子育て家庭に、保育者としてどんな支援が必要か考えておくこと。	
	11	多様な子ども・家庭と保育1(さまざまな国の子どもたち)				自分が行ってみたいと思う国の子どもたちの生活や、遊び、風習などを調べてくる。(授業中に発表を行う)	
	12	多様な子ども・家庭と保育2(子どもの貧困、児童虐待に目を向けて)				子どもの貧困や児童虐待に関する報道を一つ見つけて、読んでくること。	
	13	現代の子育てと子育て支援、保育者に求められるもの				テキスト第8章を読んでおくこと。	
	14	復習テスト(2回目)、教育実習Ⅱを終えて				第7回～13回までの授業の内容を復習しておくこと。	
15	2回目復習テストフィードバック、まとめ				授業中に配布した資料、復習テストの答案に目を通しておくこと。		
評価方法	第7回と14回の授業において、それまでの授業の復習テストを行う。(復習テスト総得点の20%を評価に反映する) 授業の評価は、以下の表のとおり①定期試験 70%、②復習テスト 20%、③宿題・レポート 10% の割合で行う。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	復習テスト	◎	○				20%
	宿題・レポート(発表を含む)	◎			○		10%
履修上の注意	単位取得要件の出席回数については、各自学生便覧を読み確認すること。また、遅刻・早退も取得要件に関わるので、各自確認しておくこと。						

科目名	子どもの食と栄養						
科目名(英)	Child Nutrition						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	大仁田 あずさ		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	大学にて専任教員として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	改訂保育所保育指針では、食育の推進において、(1)保育所の特性を生かした食育、(2)食育の環境整備等、さらなる食育の充実を図ることが求められている。本科目では、子どもの栄養・食生活が生涯にわたる健康と生活の基盤であることを理解し、さらに、栄養の基本的知識や発育・発達段階に応じた適切な栄養摂取と健康な食事のあり方を学ぶ。また、保育における食育の意義や現在、深刻化している食物アレルギーなどの特別な配慮を要する子どもの食生活の現状と対応についても理解を深める。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○						
	○						
		○					
				○			
目標	栄養素の種類とはたらき、食事摂取基準の意義とその活用について説明できる。 乳児期、幼児期、学童期・思春期の各時期における栄養・食生活について説明できる。 保育における食育の意義とその実践について具体的に述べるができる。 食物アレルギーを正しく理解することにより、給食での安全な対応ができる。 保育者として、子どもたちに正しい食育を実践するために、自身が健康で豊かな食生活を実現することができる。						
テキスト・教材 参考図書	二見大介、高野陽 編著 『子どもの食と栄養』 北大路書房						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	子どもの心身の健康と食生活の意義-子どもの食生活の現状と課題			【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再度確認する(0.5時間)		
	2	栄養に関する基本的知識-栄養素の種類とはたらき、食事摂取基準の意義とその活用			【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再度確認する(0.5時間)		
	3	妊婦・授乳期の栄養ケア・マネジメント-妊娠期・授乳期の栄養・食生活			【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再度確認する(0.5時間)		
	4	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活-乳汁栄養、離乳の意義とその実践			【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再度確認する(0.5時間)		
	5	幼児期の心身の発達と食生活-幼児期の食生活の特徴、間食の意義とその実践			【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再度確認する(0.5時間)		
	6	学童期・思春期の心身の発達と食生活-学童期・思春期の食生活の特徴、学校給食の重要性			【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再度確認する(0.5時間)		
	7	食育の基本と内容・方法-保育における食育の意義とその実践			【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再度確認する(0.5時間)		
	8	家庭や児童福祉施設における食生活と栄養			【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再度確認する(0.5時間)		
	9	特別な配慮を要する子どもの食と栄養-食物アレルギー、障がいのある子どもへの対応			【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再度確認する(0.5時間)		
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%
履修上の注意							

科目名	子どもの食と栄養SC						
科目名(英)	Schooling of Nutrition						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	大仁田 あずさ		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	大学にて専任教員として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	授業科目「子どもの食と栄養」で学んだ内容を踏まえて、年齢や発達段階に沿った食事を作成する。また、その作成の過程を通して、保育における食育の意義や特別な配慮を要する子どもの食生活の現状と対応について理解を深める。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		保育者として、子どもたちに正しい食育を実践するために、自身が豊かな食生活を実践することができる。	
		○				保育における食育の意義を踏まえ、その内容を実践することができる。	
					○	乳児期、幼児期、学童期・思春期の各時期における栄養・食生活の情報をもとに、その状況に沿った食事を準備・提供することができる。	
				○		食物アレルギーを正しく理解することにより、給食での安全な対応を行うことができる。	
	○					食事を準備・提供する過程で、「食」の本質について理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	二見大介、高野陽 編著 『子どもの食と栄養』 北大路書房						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1日目 調理実習			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	2	1日目 調理実習			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	3	1日目 調理実習			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	4	1日目 調理実習後の振り返りとまとめ					
	5	2日目 調理実習			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	6	2日目 調理実習			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	7	2日目 調理実習			教科書の該当範囲を読んでおくこと		
	8	2日目 調理実習後の振り返りとまとめ					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	調理実習に臨む姿勢・態度				◎		30%
	事後レポート	○	◎				10%
	出席状況			◎	◎		60%
履修上の注意	①遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	子どもの保健						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川端 いづみ		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	養護教諭		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの保健の意義、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題について学ぶ。</li> <li>・子どもに起こりやすい疾病や事故について、その予防と対策についても学ぶ。</li> <li>・テキストの内容を理解した上で、自分の考えを述べるができるようになる。</li> </ul>						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		子どもの保健の意義について知る。	
	○	○		○		子どもの心身の正常な発育、及び発達段階各期の特徴を理解する。	
	○	○		○		子どもの疾病、事故、その予防と対策について理解する。	
	○	○		○		保育者として、応急処置全般を理解する。	
テキスト・教材 参考図書	「よくわかる子どもの保健 第3版」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	身体発育と保健				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	2	生理機能の発達と保健				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。レポートに必要な記事の収集を行う。	
	3	運動機能の発達と保健				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。レポートに必要な記事の収集を行う。	
	4	精神機能の発達と保健				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。レポートに必要な記事の収集を行う。	
	5	子どもの精神保健				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。レポートに必要な記事の収集を行う。	
	6	子どもの生活と健康				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。レポートに必要な記事の収集を行う。	
	7	子どもの疾病の特徴				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。レポートに必要な記事の収集を行う。	
	8	呼吸器疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。レポートに必要な記事の収集を行う。	
	9	感染症・予防接種				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。レポートに必要な記事の収集を行う。	
	10	消化器・循環器疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。レポートに必要な記事の収集を行う。	
	11	泌尿器・生殖器疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。レポートに必要な記事の収集を行う。	
	12	中枢神経系疾患・代謝内分泌疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。レポートに必要な記事の収集を行う。	
	13	整形外科・血液疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。レポートに必要な記事の収集を行う。	
	14	現場で役立つ救急時の対応				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。レポートに必要な記事の収集を行う。	
15	子どもの事故防止対策と安全教育				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。レポートに必要な記事の収集を行う。		
評価方法	レポート、科目終末試験を総合評価します。 レポート2冊書き上げる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート・科目試験下書き	◎	◎		◎		80%
	小テスト	○	○	○	○		20%
履修上の注意	レポートの下書きが未提出の時は評価の対象としない。						

科目名	図画工作Ⅱ						
科目名(英)	Arts and Crafts Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川村愛		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	こども絵画造形教室主宰		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	本講義では、1年次で学んだことを踏まえ、子ども達の豊かな感性を伸ばすことができる保育者としての視点・気づきを大切に、自らも楽しみながら主体的に制作に取り組むことを目標とします。制作活動を通して、計画→制作→鑑賞→計画を繰り返し、保育者として実践的な感覚を養います。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○	○		作品の制作に主体的に取り組むことができる。	
	○	○	○			保育者として制作活動に必要な技法と画材の知識と技術を向上させることができる。	
		○				子どもの発達を想定して制作活動の計画準備をすることができる。	
	○					相互に作品を鑑賞し、保育者としての視点とポキャブラリーを身につけることができる。	
テキスト・教材 参考図書	図画工作(近代テキスト)、参考図書:『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』樋口一成(萌文書林)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション・幼児の発達と制作活動の関わり				教科書に目を通す。	
	2	表現のための材料/道具を使う				今回の授業を踏まえレポートを作成する。 次回授業の準備をする。	
	3	個人制作 平面 異なる表現技法を使って				今回の授業を踏まえレポートを作成する。 次回授業の準備をする。	
	4	個人制作 立体 異なる素材を使って				今回の授業を踏まえレポートを作成する。 次回授業の準備をする。	
	5	発表と鑑賞 / 共同制作の準備				今回の授業を踏まえレポートを作成する。 次回授業の準備をする。	
	6	共同制作 大きな絵の制作① 下絵					
	7	共同制作 大きな絵の制作② 着彩				今回の授業を踏まえレポートを作成する。 次回授業の準備をする。	
	8	共同制作 大きな絵の展示 / まとめ				今回の授業を踏まえレポートを作成する。 スクーリングの準備をする。	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業内で作品を制作し提出をする。(2)作品について発表をする。(3)レポートを数回実施する。 (4)欠席等で作品の提出ができない場合、別課題を課する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	作品制作		◎	○	○		60%
	発表	○	◎				20%
	レポート	○	◎		○		20%
履修上の注意	汚れてもよい服装で授業に臨むこと。材料、道具類など制作に必要なものは各自用意すること。						

科目名	生涯スポーツSC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	水上 勝彦		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	幼児体育教室運営		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	平均寿命の延伸に伴い、一人ひとりのライフスタイルや年齢、体力、運動技能に応じて、生涯にわたり様々な形でスポーツとの関わる機会を設け、スポーツにおける多くの意義と役割を暮らしの中に取り入れることを念頭に置き、生涯を通じて、いつでも、どこでも、誰でも趣味的な観点でスポーツに親しむことができることを目標にする。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		グループやクラス内において積極的な協力を実践することができる。	
		○				健康寿命の考えを念頭に置き、生涯に渡って活動することについて学びを深めることができる。	
	○					スポーツを行う中で、しっかりとコミュニケーションを図ることができる。	
		○				レクリエーションの要素を含めながらの運営を意識することで学ぶことができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目(スポーツ競技を通じての関わりを持つ)					
	2	1日目(スポーツ競技を通じての関わりを持つ)					
	3	1日目(スポーツ競技を通じての関わりを持つ)					
	4	1日目(スポーツ競技を通じての関わりを持つ)					
	5	2日目(学年交流会への参加)					
	6	2日目(学年交流会への参加)					
	7	2日目(学年交流会への参加)					
	8	2日目(学年交流会への参加)					
	9	3日目(生涯健康を念頭に実施することができるスポーツを行う)					
	10	3日目(生涯健康を念頭に実施することができるスポーツを行う)					
	11	3日目(生涯健康を念頭に実施することができるスポーツを行う)					
	12	3日目(生涯健康を念頭に実施することができるスポーツを行う)					
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況				◎		50%
	レポート作成		○				50%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	幼児と造形表現SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川村 愛		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	こども絵画造形教室主宰		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	授業科目「図画工作Ⅱ」の内容を踏まえて、保育士としての実技基礎技術を実践する。その作品の制作・片付けの課程を通して、保育現場での子どもたちとの関わりや保育者としてのあるべき姿勢についての理解を深める。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		自己表現する能力を深めることで、豊かな感性と人間性を身につける事ができる。	
	○			○		個性的な表現力のために、思考能力を発揮し、自己の文章・言葉で説明できるようになる	
		○				明確な狙いを持って、保育現場で実践することが可能な教材を作成することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・近畿大学九州短期大学 図画工作						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目 保育現場で使用することが可能な絵本の作成				制作部品を考案する。	
	2	1日目 保育現場で使用することが可能な絵本の作成				制作部品を考案する。	
	3	1日目 保育現場で使用することが可能な絵本の作成				制作部品を考案する。	
	4	1日目 保育現場で使用することが可能な絵本の作成				制作部品を考案する。	
	5	2日目 絵本の制作の続きと発表のリハーサル				1日目の作品の内容を踏まえて発表のシミュレーションを行う。	
	6	2日目 作品の発表					
	7	2日目 作品の発表					
	8	2日目 全日程の振り返りとまとめ				今回のスクーリングの内容・過程を踏まえ、レポートを作成する。	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	出席を意欲点として評価する成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品	○	◎		◎		70%
	レポート	◎	○		◎		30%
履修上の注意	①遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						



科目名	保育内容総論SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	保育士として保育所に13年間勤務		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	1年次に保育内容の5領域について学んできたが、保育は環境や遊びを通して総合的に指導するものであることから、これらの総合的な指導と、各論ではなく総論として学んでいくことの意義や関連性について確認していく。また、保育内容は時代を経て変遷していく。保育の歴史に学びながら、再度、現代に求められている保育や子育て支援のありかたについて考察を深めていく。授業は講義と実践(模擬保育)によって構成される。この授業は保育原理とも関連していることから、科目横断的に学習していく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	○				保育内容各領域をなぜ総論として学ぶのか、説明できる。	
	◎	○				近代の保育と現代の保育、保育に社会が求めてきたものについて、簡単に説明することができる。	
		◎	○			自分が立案した部分実習指導案を実践することができる。	
	◎			○		指導案にデザインされた保育者の意図について、説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、そのほか適宜教員作成の資料を配布する。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション、保育内容総論とは			幼稚園教育要領、保育所保育指針を読んでおく。		
	2	保育内容の歴史の変遷			保育原理で勉強した保育の歴史について、復習しておくこと。		
	3	模擬保育①			模擬保育に必要な環境構成・準備をする。		
	4	模擬保育②			模擬保育に必要な環境構成・準備をする。		
	5	領域と保育内容			模擬実践で行う保育の内容について、領域の面からどのような要素があるか、メモしておくこと。		
	6	保育者の専門性			保育者の専門性にはどのようなものが考えられるか、メモにまとめておくこと。		
	7	模擬保育③			模擬保育に必要な環境構成・準備をする。		
	8	模擬保育の振り返り、保育者の役割			自分自身の模擬保育について改善点を述べるができるよう、考えをまとめておく。		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	評価は①模擬保育(50%)、②模擬保育の準備(指導案(提出期限を守ることも含む)、保育に必要な道具・環境整備も含む)(30%)、③発表・発言(20%)の割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬保育			○	◎		50%
	模擬保育の準備		○		◎		30%
	発表・発言		○		◎		20%
履修上の注意	本科目は、教育実習Ⅱ、保育実習Ⅰの実習要件科目である。						

科目名	言語表現SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	宿泊を伴う1泊2日の中で創作劇(オリジナルのテレビ番組)の製作を行う。限られた時間の中でグループメンバーと協力し、自分達の発想力を活かし、意見を出し合いながら創作劇を製作する中で保育者としての表現力・創造性の力を身につける						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○	○		グループで力を合わせ、表現力を活かした創作劇を作成する	
			○			創作劇を演じる中で、言葉の表現力を身につけ、表現の楽しさを味わう。	
			○			他学科の仲間やクラスメイトとチームを組み自分の意見を発したり、相手の意見を聞き入れて物事を作り上げる力が付く	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション アイスブレイク					
	2	グループ分け ジェスチャーゲーム フォトフレーム					
	3	話し合い・創作(テレビ番組制作)					
	4	台本製作					
	5	練習①					
	6	中間発表					
	7	練習② 仕上げ					
	8	発表 振り返り まとめ					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)SCの出席(2)SC中の取り組みに対しての意欲・関心・態度(3)出来上がった作品の完成度(4)個人の表現力を以下の観点・割合で評価する。成績評価基準はS(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	SCの出席					○	10%
	取り組みに対しての意欲・関心・態度				◎		30%
	作品の発表・完成度		○	○	○		30%
	表現力			◎	○		30%
履修上の注意	遅刻(30分以上)欠席の場合、近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする。						

科目名	教育実習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	80時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	幼稚園に教諭として3年間、幼保連携型認定こども園に保育教諭として1年間勤務		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	教育実習Ⅰをふまえ、実習までに学んできた子どもの発達に関する知識、幼児教育の原理・原則を念頭に置きつつ、幼稚園という教育現場の中で教育実践を行うことを目的とする。本実習においては、教育実習Ⅰに引き続き幼稚園教諭の働きについて理解を深めること(家庭との連携も含む)、また自身で作成した実習指導案の実践および省察を行うことを主眼とする。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					幼稚園の教育内容、機能について理解し、説明することができる。	
			○			実習の中で子どもたちと積極的にコミュニケーションを図り、子ども理解を深めていく。	
						幼稚園教諭の職務内容や役割について理解し、実習記録に細かく記述することができる。	
	○					幼稚園教諭が日々、どのように家庭と連携しながら保育を進めているのか、説明することができる。	
	○					実習で体験したこと・感じたこと・分析したことを、実習記録に確実に記述することができる。	
	○					実習指導案をもとに、自分で考えた保育内容を実践することができる。	
テキスト・教材 参考図書	適宜、教員作成の資料を配布する。						
授業計画	授業項目・内容			授業外学修指示			
	10 日 間	<p>教育実習Ⅱにおいては、以下に示す4つの視点を大切にしながら、実習を行う。</p> <p>①子どもと積極的に関わる中で、自分なりに子どもの行動の意味を考える。</p> <p>②年間指導計画などの長期的な保育計画と、日々の保育の計画との関連について理解する。</p> <p>③幼稚園教諭が日々、保護者とどのように連携を図っているか観察する。</p> <p>④子どもの活動・行動に対する幼稚園教諭の働きかけについて理解する。</p> <p>実習を行う中で、疑問点などがあつたら指導教諭・実習担当教諭に積極的に質問し、実りの多い実習となるよう努力すること。</p>			<p>・実習で行う手遊び、歌遊び、ゲームなどのレパートリーは、日ごろから増やしていくことができるようアンテナを張っておくこと。また、十分なりハーサルも行っておく。</p> <p>・実習園の年間指導計画・月間指導計画を見せていただき、部分実習が長期的な指導計画のどの部分に該当していくのか確認しながら指導案を作成する。</p> <p>・実習が終了したらただちに事後レポートを作成し、自分自身の課題を明らかにする。その課題を基に、その先につながる実習、就職活動についても考えていく。</p>		
評価方法	評価は①実習日誌の記述内容 50%、②指導案の記述内容(振り返りや次への課題も含む) 30%、③実習園による評価 20% で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		実習日誌の記述内容	◎				50%
		指導案の記述内容 (振り返りや次への課題も含む)	◎		○		30%
		実習園による評価	◎				20%
履修上の注意	教育実習 実習要件科目を取得しておかなければ実習は認められないので、各自、近畿大学学生便覧を確認し、要件科目を把握しておくこと。						

科目名	音楽表現Ⅱ						
科目名(英)	Music Performance Ⅱ						
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	中村寛子/小賀直美/石丸真理子/木下美智子/長谷川裕子/藤田一美/古田淳子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	近畿大学九州短期大学特任講師(中村)		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	保育の現場では、音楽が必須のものとなる。朝登園後「おはようの歌」、昼食には「お弁当の歌」、お昼寝時には「お休みの歌」降園時には「お帰りの歌」、その他にも自然や季節を感じて感性を高めるために「様々な季節の歌」「遊び歌」「行進曲」等。その音楽をすべて保育士が把握をし、ピアノ伴奏していかなくてはならない。この授業ではできる限り沢山の曲をうたい、ピアノ演奏する。そのために必要な知識、技術も同時に身に付ける。1年次に比べて、2年次では現場で使える曲が中心となるので、1年次よりも更に難しくなる。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					音楽の基礎知識となる、楽典の習得(楽譜、)や休符、表紙、記号等の知識)	
		○				ピアノの演奏技術の習得(正しい運指、左右の手のスムーズな動き、10本の指の独立した動き	
			○			声楽の基本技術の習得(正しい音程、呼吸法、リズム等)	
			○			集中力の持続、継続的な努力、意欲	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近畿大学九州短期大学発行/ピアノ教本、声楽教本</li> <li>・ヤマハミュージックメディア発行/はじめての楽典ブック</li> <li>・チャイルド社発行/子どもの歌100</li> <li>・音楽之友社/バイエル教則本・講師作成の楽譜(ファイル保管)</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示(自宅学習)	
	1	・バイエル73番				・バイエル73番	
	2	・バイエル75番				・バイエル75番	
	3	・めだかの学校				・めだかの学校	
	4	・おかあさん				・おかあさん	
	5	・こいのぼり				・こいのぼり	
	6	・とけいのうた				・とけいのうた	
	7	・大きな古時計				・大きな古時計	
	8	・練習					
	9	・すてきなパパ				・すてきなパパ	
	10	・おつかいありさん				・おつかいありさん	
	11	・あめふりくまのこ				・あめふりくまのこ	
	12	・しゃぼん玉				・しゃぼん玉	
	13	・とんぼのめがね				・とんぼのめがね	
	14	・せんせいとおともたち				・せんせいとおともたち	
	15	・練習					
	16	・もりのくまさん				・もりのくまさん	
	17	・ふしぎなポケット				・ふしぎなポケット	
	18	・さんぽ				・さんぽ	
	19	・いとまき				・いとまき	
	20	・バイエル78番				・バイエル78番	
	21	・練習					
	22	・練習					
	23	・練習					
24	・前期試験						
評価方法	<p>・1曲ごとの合格を経て、試験曲に臨むが、授業中での曲の履修が完全にできなければ、単位を取得できない。          ・ピアノの上達は、日々の継続的な努力なくしてはあり得ないため、態度、意欲が重要なカギとなる。</p>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○		○		80%
小テスト		○		○		20%	
履修上の注意	習得局が多いが、日々の努力を重ねれば、演奏できるようになる。日々の努力を怠らないように。						

科目名	合奏Ⅱ					
科目名(英)	Ensemble					
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	高松聡美・中村寛子	
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	演奏家歴34年現在も活動中(高松)	
対象学科・学年	こども未来学科 2年					
授業概要	<p>保育の現場において必要不可欠な音楽。幅広い知識とそれを応用できる力が求められる。この授業では保育現場で活用できる子どもの曲や打楽器を中心に講師のオリジナル編曲を用いながらクラス単位で協力して取り組む。合奏を通して社会性を身に付ける。「コミュニケーション力」「チーム力」「忍耐力」「協調性」「人を思いやる心」などを育む。また資料、楽譜、楽器等自分の物、公共の物を大切にすることを身に付ける。1年で培ったチームワークを生かし、リーダーシップが取れるようになったり、広い視野でチームをまとめる力をつける。</p>					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	
					目標	
					○ 資料・楽譜に記名、ファイルに収め管理することができる。	
					○ 準備・後片付けが速やかにきれいに行えるようになる。	
			○		○ 楽器の名前を覚え、正しく使用する事ができる。	
	○			○	○ チーム内でより良い作品にするための話し合いができるようになる。	
	○	○			○ チームの良いところ、改善点などを分析できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	高松聡美編曲集					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	楽器の名称と奏法—楽器の絵を書き名称を覚え演奏法を習得する			資料・楽譜をファイルにまとめなくさないようにする。	
	2	小編成合奏—チーム分けをし少人数で合奏をする			名称奏法の確認をしておく	
	3	小編成合奏—チーム分けをし少人数で合奏をする。			チームでの練習をする	
	4	小編成合奏—チーム分けをし少人数で合奏をする。他チームの演奏を分析する。			チームでの練習をする	
	5	大編成合奏—クラス全員での合奏をする。			クラスでの練習をする	
	6	大編成合奏—クラス全員での合奏をする。練習効率を話し合うことができる。			クラスでの練習をする	
	7	大編成合奏—クラス全員で合奏をする。強弱などのニュアンスをつけられるようにする。			クラスでの練習をする	
	8	総仕上げ—楽器の名称奏法について確認 合奏総仕上げ発表			個人での確認・クラスでの練習をする	
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	(1)資料・楽譜の管理ができていないか。(2)授業中の態度・意欲。(3)作品発表を実施する。(4)楽器の名称についての筆記。奏法の実技テストを行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	発表・作品			◎		
	授業態度				◎	
	資料・楽譜楽器管理					◎
	楽器の名称・奏法		◎	◎		
評価割合						
履修上の注意	仕上がりりに妥協せず、よりレベルアップを目指してもらいたい。					

科目名	教育実習指導Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	幼稚園に3年、幼保連携型認定こども園に1年間勤務		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	1年次・教育実習指導Ⅰの履修や教育実習で得た知識、技術を基に、保育を展開するにあたって保育者が配慮すべきことに自ら気づき、指導案に反映し作成できるようになる。模擬保育ではグループワークを行い、学生同士の保育についての意見交流ができる場を設ける。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		◎		○		教育実習Ⅱまでに指導案を3案、計画し立案できる。	
	◎	○				保育に必要なものの準備や配慮事項など、自ら気づき指導案に記述することができる。	
		◎	○			自分自身の課題に向けての取り組み方法などを明確にし、模擬保育で実践する。	
テキスト・教材 参考図書	同文書院版 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション、教育実習Ⅰ振り返り(実習園からの評価を受けて)					
	2	履修カルテの記入、小テスト(日誌の書き方、文章表現など)、指導案の作成①				教育実習指導Ⅰで学んだ”日誌”でよく使用する漢字”用語の表記”などを復習しておく。	
	3	小テスト解説、指導案の作成②(授業の最後で、一旦回収する)				作成し始めた指導案について、自宅学習で記入できるところはしておくこと。	
	4	実習目標の設定				テキストP158～161までを読んでおくこと。	
	5	実習オリエンテーションの報告書作成				オリエンテーションの際にうかがったことについて、各自メモを読み返しておくこと。	
	6	模擬保育①				模擬保育に必要なものを準備しておくこと。	
	7	模擬保育②				模擬保育に必要なものを準備しておくこと。	
	8	模擬保育③、模擬保育の振り返り				模擬保育に必要なものを準備しておくこと。	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	評価は指導案の作成(期限を守ることも含む)40%、小テスト10%、模擬保育(質疑応答を含む)50%で行う。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	指導案	◎	○				40%
	小テスト	◎	○				10%
	模擬保育(質疑応答を含む)		◎		○		50%
履修上の注意	3回以上欠席したものは、単位を取得することができない。遅刻・早退も取得要件にももちろん関わるので、各自、学生便覧を熟読し出席管理は各自で行うこと。						

科目名	保育園実習指導 I						
科目名(英)	Guidance to Care Field Study I						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	幼稚園実習 I、II の経験を踏まえ、幼保の社会的役割や成り立ちの違いを正しく理解する。特に0.1.2歳児の細やかな発達の違いや連続性、以上児への発達のつながりを理解し、実習の中で実践と知識を繋げ、より理解を深める為の基礎を培っていく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	◎				保育園実習の目的を正しく理解する	
		◎				幼稚園、保育園の違いについて正しく理解し説明する事が出来る	
		◎	◎			保育園訪問にあたっての電話や訪問のマナーを理解し実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	同文書院版 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション 実習の目的について リストアップについて					
	2	保育実習の流れについて					
	3	実習生調査票について。調査票書き					
	4	実習アポイントの電話のかけ方 電話のマナーについて					
	5	0歳児の発達について					
	6	1歳児の発達について					
	7	実習に必要な書類について					
	8	オリエンテーションの訪問マナーについて					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①授業態度②提出③実践への取り組み④出席 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はS(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○	◎		◎		20%
	提出物	◎			◎		40%
	取り組み		◎		◎	○	30%
	出席				○		10%
履修上の注意	出席が6回に満たない者に単位の修得は認めない						

科目名	保育実技Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	長田 皓子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	保育指導者として子どもたちの前に立つ時、子どもたちの心の動きをよく観察し受け止めながら、どのように子どもたちを喜ばせられるか、また、どのように意欲を引き出していくことが出来るかを学ぶ、学生自身が創る(作る)喜び、伝える喜びを学び、体得しながらよりよい保育者を目指す。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					集中させるときの手遊び、教える手遊び、年齢にあった手遊びを身につける。	
	○			○		製作活動を幅広く経験する。	
	○		○			身体的活動を(体育)楽しくするきっかけづくりを学ぶ。	
	○	○				遊びの中にも知的活動があることを知る。	
	○					子どもたちから意欲を引き出す方法を学ぶ。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業内容の説明をする(自己紹介) 手遊び・歌遊び					
	2	人が育つ道筋を話す。毛糸を使ってお話、手品、あやとり					
	3	絵本の読み聞かせ(好きな絵本を持ち寄る)					
	4	折り紙(不思議な輪、むつくり三角、羽ばたく鳥、馬、パンダ、おすもう、星、かえる、鉄砲・・・etc)					
	5	パネルシアター 見る、作る、演じる					
	6	パネルシアター 見る、作る、演じる					
	7	不思議な絵をつくる(色が消えたり、出てきたり・・・)					
	8	発表する					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)授業への出席・積極的参加(2)宿題・レポートなどの提出物(3)授業中の発表・作品 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席				○		10%
	積極的参加				○		10%
	宿題レポート		○				10%
	発表・作品	○	◎		◎		70%
履修上の注意							



科目名	カウンセリング演習						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	姫田 尚子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	カウンセラーとしてカウンセリングに従事		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	幼稚園教諭や保育士は園児のみならず、保護者のサポートも不可欠である。その場合、コミュニケーションの一つである「カウンセリング力」が必要とされる。カウンセリングの基礎を理解し、自身の「コミュニケーションのクセ」を確認したうえで演習を通して「カウンセリング力」の習得を目指す。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				自身の心の状態を分析し、説明できる。	
	○					「聴くスキル」である4つのポイントを理解し説明できる。	
	○					「伝えるスキル」である3つのポイントを理解し説明できる。	
		○		○		学んだスキルを使って演習にチャレンジする。	
テキスト・教材 参考図書	●学事出版「人間関係スキルアップワークシート」 ●実務教育出版「TA TODAY」 ●PHP研究所「自分の気持ちをきちんと伝える技術」 ●金子書房 グループ体験学習ワーク						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自分と向き合う～自身を様々な側面から見つめ、新たな自分に気づく					
	2	自我状態(1)～自分と相手の心の状態					
	3	自我状態(2)～心地よい心の状態					
	4	聴くスキル～会話を弾ませるための質問の大切さと働き					
	5	アサーショントレーニング(1)～正直に伝えることのメリット・デメリット					
	6	アサーショントレーニング(2)～気持ちの良い「断り方・頼み方」					
	7	アサーショントレーニング(3)～「謝り方」					
	8	まとめ～前期の復習				前期のまとめをするので、復習しておくこと	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	1)毎回の授業の最後に「授業で理解したこと・感じたこと」を記入し提出 2)演習への取り組みの姿勢 3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	演習	○	◎		◎		20%
	理解したこと・感じたこと	◎	○				10%
履修上の注意							

科目名	一般教養Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	岩下 隆司		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	社会人スクール講師3年 専門学校教員21年		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで習ってきた漢字を復習し、漢字を書く習慣を身に付ける</li> <li>・漢字の正しい使い方を習得し、実習日誌等で適切に漢字を使った文章を書けるようになる</li> </ul>						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					日常よく使用する常用漢字を習得する	
		○				同音異義語を場面に応じて適切に書ける	
テキスト・教材 参考図書	実教出版 一般教養&SPI2 わかば社 保育の基本用語						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	漢字プリント(常用漢字)①					
	2	漢字プリント(常用漢字)②					
	3	漢字プリント(常用漢字)③					
	4	漢字プリント(常用漢字)④					
	5	漢字プリント(同音異義語)①					
	6	漢字プリント(同音異義語)②					
	7	漢字プリント(同音異義語)③					
	8	漢字プリント(同音異義語)④					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	後期末正試験で評価 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位を付与しない。						